「日々の理科」（第 2009 号）　2020,-1,-9

「江の島紀行（10）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

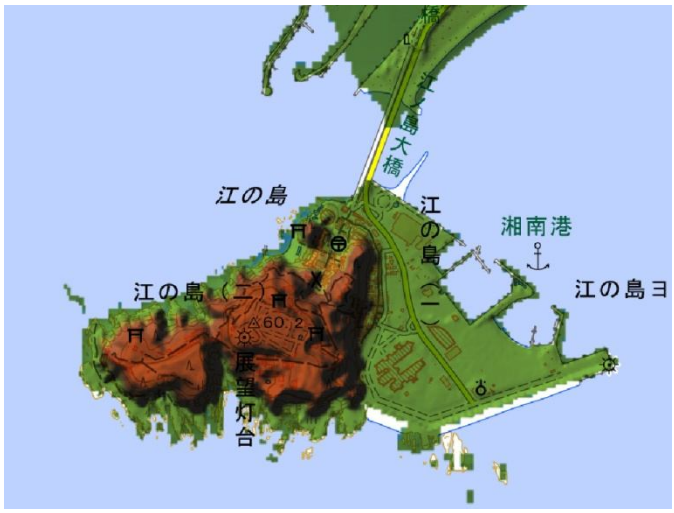
江の島神社の参道は土産物のお店が多いが、海産物を中心にした食堂や料亭も見られる。

店先には「生きたカニ」が展示されていた。「売約済」とはよく言ったものだ。客引きの為の展示だろう。こんな狭い容器の少ない海水で、長時間生きられると不思議になった。

こちらはもっと珍しい。最初は「ナマコ」か何かと思ったが、水面近くを泳いでいる。これは「コウイカ」（甲烏賊）の仲間だ。注意書きがあり、「覗き込むんだり触ったりすると、墨を吐いて、服を汚します」とある。それならわざわざ店先に置かなくても良いのにと思うのだが、ついつい見入ってしまう。やはり、こうした「生きた海の生き物」が店先にあると、集客効果は絶大だろう。

参道の商店街を上り終わって、右（西側）に折れると、細い林道になる。これは、江の島の裏側（江の島二丁目）に向かう道だ。江の島には現在約 350 人の定住者がいて、その生活道路になっている。

この道には岩石の露頭が随所に見られる。一目見て、凝灰質の砂岩と判別できる。



これは江の島の「色別標高図」である。左側（江の島二丁目）がもともとあった自然の島、右側（江の島一丁目）は、主として人工的な埋立地である。